

寄贈図書リスト

ハッブル望遠鏡が見た宇宙

野本陽代, R. ウィリアムズ著, 新書判, 212 p, 940 円, 岩波書店, 読み物

月報だより

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

すばる望遠鏡 研究員

1. ポストドクトラル研究員 2名
 - a) 望遠鏡/観測装置立ち上げ担当
1名 (position ID#175)
 - b) 広報プログラム担当
1名 (position ID#176)
2. (1) 国立天文台 ハワイ観測所
(2) 国立天文台 ハワイ観測所
3. 光学赤外線天文学, 天文工学
5. (1) 決定後, できるだけ早い時期 (2) 3年間
6. 天文学ないし関連分野での博士号 (採用時点で取得していること)
8. 1997年8月1日
9. (2) 日本側の問い合わせ先: 国立天文台 林 正彦
Tel 0422-34-3611 Fax 0422-34-3608
ただし応募書類は英文にて下記の宛先に送付, 1997年8月1日必着のこと。その他の詳細については, 下記の英文の原文を参照下さい。

a) Postdoctoral Fellow ID#175

RCUH/NAOJ Subaru Telescope Project

Fixed term three year appointment (possibility of extension) by Research Corporation of the University of Hawaii (RCUH) with Subaru Telescope Project, National Astronomical Observatory of Japan (NAOJ), located in Hilo, Hawaii. Duties include : Pursue a program of astronomical

research, publish and present results at conferences. Participate actively in laboratory and field tests of the Subaru telescope and its instruments and support facilities. Substantial work will be required with a significant amount of time being spent at the telescope site (at a high altitude, 14,000 feet). The successful candidate can expect to be transferred to the operations team of the Subaru telescope after its completion expected in the year 2000.

Qualifications : Candidate should have a recent Ph. D. in astronomy or related field. Experience observing at optical and/or infrared wavelengths including use of two dimensional detector arrays. Experience using astronomical software, including packages for instrument control and astronomical data reduction. Ability to undertake independent program of observational astronomical research. Good written and oral communications skills in English. Possess a valid driver's license and able to operate four wheel drive vehicles. Must pass a high altitude physical examination and work at a high altitude (14,000 feet).

Application Requirements : Send cover letter (note Recruitment No.) with narrative on your qualifications for the position, a curriculum vita and an outline of proposed research including its relation, if any, to ongoing research at NAOJ Subaru Project to the Director of Human Resources, Research Corporation of the University of Hawaii, 2530 Dole Street, Sakamaki Hall, D-100 Honolulu, HI 96822. Candidates should also request that confidential letters of recommendation be sent directly to us by three scientists who are familiar with the applicant's work.

Complete applications and all letters of reference should be received by 1 August 1997.

b) Postdoctoral Fellow (Public Relation) ID#176
RCUH/NAOJ Subaru Telescope Project

Fixed term three year appointment (possibility of extension) by Research Corporation of the University of Hawaii (RCUH) with Subaru Telescope Project, National Astronomical Observatory of Japan (NAOJ), located in Hilo, Hawaii. The successful candidate will be expected to carry out scientific research and also is expected to spend minimum 50% of time in establishing the public relation programs of the Subaru Telescope at Hilo, Hawaii. Participat-

ing in laboratory and field tests of the Subaru telescope and its instruments is encouraged. Some of the work will be required with a significant amount of time being spent at the telescope site (at a high altitude, 14,000 feet). The successful candidate can expect to be transferred to the operations team of the Subaru telescope after its completion expected in the year 2000.

Qualifications : Candidate should have a recent Ph. D. in astronomy or related field. Experience observing at optical and/or infrared wavelengths including use of two dimensional detector arrays. Experience using astronomical software, including packages for instrument control and astronomical data reduction. Ability to undertake independent program of observational astronomical research. Good written and oral communications skills in English. Possess a valid driver's license and able to operate four wheel drive vehicles. Must pass a high altitude physical examination and work at a high altitude (14,000 feet).

Application Requirements : Send cover letter (note Recruitment No.) with narrative on your qualifications for the position, a curriculum vita and an outline of proposed research including its relation, if any, to ongoing research at NAOJ Subaru Project to the Director of Human Resources, Research Corporation of the University of Hawaii, 2530 Dole Street, Sakamaki Hall, D-100 Honolulu, HI 96822. Candidates should also request that confidential letters of recommendation be sent directly to us by three scientists who are familiar with the applicant's work.

Complete applications and all letters of reference should be received by 1 August 1997.

国立天文台 COE 研究員

1. 研究者 4 名 今回は、宇宙電波分野 3 名、すばるプロジェクト分野 1 名の募集である。
2. (1) 宇宙電波分野 45m 望遠鏡、ミリ波干渉計、レインボウ計画など高度化プロジェクトに従事し、電波天文分野における先進的な観測研究を推進する。
(2)勤務地：長野県南佐久郡南牧村野辺山
2. (1) すばるプロジェクト 建設中の大型光学赤外線望遠鏡「すばる」のプロジェクトに従事し、各種の技術開発・試験・観測・研究を推進する。(2)勤務地：当面は東京都三鷹市、あるいは岡山県浅口市郡鴨方町、将来はハワイ勤務もあり得る。
5. (1) 決定後可能な限り早い時期 (2) 原則として 2 年 (特別の事情のある時は 1 年延長を可とする)
6. 博士の学位を取得または平成 9 年 7 月 31 日までに取得見込みのもので、平成 9 年 8 月 1 日現在 35 歳未満のもの

7. (1) 履歴書, (2) 研究歴・研究業績概略, (3) 研究論文リスト, 及び主要論文別刷 (共著の場合は本人の役割を明記のこと), (4) 研究計画書, (希望の分野・プロジェクトを明記のこと) (5) 推薦書 (ある場合は添付)
8. 平成 9 年 7 月 11 日 (金) (当日消印有効)
9. (1) 〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 小平桂一
(2) 〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台企画調整主幹 観山正見
TEL 0422-34-3738
10. 11. 封筒の表に「COE 研究員応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。別に公募する「国立天文台研究員」に併せて応募する事は差し支えない。非常勤講師としての待遇、給与 (月額 30 万程度) を供する。

国立天文台非常勤研究員公募

1. 研究員 (若干名) 国立天文台において、開発、観測、研究等に積極的取り組み、先進的な研究を推進する若手研究者を求める。以下に分野、及び勤務地を掲げる。
2. (1) 電波天文学分野
(2) 主として長野県南佐久郡南牧村野辺山
2. (1) 光学赤外線天文学分野
(2) 東京都三鷹市又は岡山県浅口市郡鴨方町
2. (1) 一般分野及びその他 国立天文台の各分野においてそれぞれの研究を推進する。
(2) 勤務地は分野による (詳しくは問い合わせのこと)。
5. (1) 平成 9 年 8 月 1 日以降
(2) 原則として 2 年。
6. 大学院修士課程修了、又は同等以上の学力を持つ者。
7. (1) 履歴書, (2) 研究歴・研究業績概略, (3) 研究論文リスト (共著の論文については本人の役割を明記のこと), 及び主要論文別刷, (4) 研究計画書 (希望の分野・勤務地・受入れ教官名 (予定) を明記のこと) (5) 推薦書 (ある場合は添付)
8. 平成 9 年 7 月 11 日 (金) (当日消印有効)
9. (1) 〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 小平桂一
(2) 〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台企画調整主幹 観山正見
TEL 0422-34-3738
10. 11. 封筒に「研究員応募書類在中」と朱記し、簡易書留でお送り下さい。別に公募する「国立天文台 COE 研究員」に併せて応募する事は差し支えない。教務補佐員としての給与を支給する (詳細は上記に問い合わせのこと)。

研究助成

第5回日産科学賞候補者推薦について

上記の推薦依頼が天文学会にきておりますのでお知らせ致します。

日産科学賞候補者推薦要領

1. 趣旨

若手・中堅の研究者で、特に顕著な業績にたいして表彰し、励ましと研究の発展を期待して支援をする。

2. 推薦基準

自然科学分野（人文・社会科学分野との複合領域を含む）で、下記により学術文化の向上発展に大きな貢献をした満50歳未満（平成10年3月時点）の公的研究機関に所属する研究者とします。

a) 学術研究上重要な発見をした

b) 新しい研究分野を開拓した

※45歳以下で上記基準に該当する方がおられる場合は、優先的にご配慮願います。

3. 推薦者：貴学協会の代表者

4. 推薦依頼数：1名

5. 賞の内容：正賞……賞状、メダル

副賞……研究奨励金500万円（受賞者の研究のための助成金）

6. 発表：平成10年2月

7. 推薦手続：所定の用紙に必要事項を記入し、天文学会に提出して下さい。（用紙は天文学会に用意してあります）

8. 学会締切：平成9年7月31日(木)

9. 問い合わせ：日本天文学会

第11回日本IBM科学賞について

日本天文学会に標記の案内がきております。その概要をお知らせします。推薦書類は天文学会事務局にありますからお申し出下さい。応募締切は8月15日(金)必着となっております。

名 称：日本IBM科学賞

目 的：わが国における基礎研究の振興と若手研究者の育成

候補者資格：

1) 国内の大学あるいは公的研究機関に所属し、その研究活動の分野が、つぎのような領域に該当する基礎研究者（国籍は問わない）

(1) 物理

(2) 化学

(3) コンピューターサイエンス

(4) エレクトロニクス

2) 平成9年8月15日現在満45歳以下であること

受賞人数：6名（6件）

推薦方法：国内の大学あるいは公的研究機関等に所属されている方の推薦

選 考：審査委員会により決定する

賞 金：300万円（1件）

発 表：推薦者を通じて通知（10月上旬予定）

ジェームス S. マックダネル財団

100年記念奨励研究費公募

若手研究者に対して以下のそれぞれの分野において100万USドルを支給する。

●天体物理学および宇宙論

●認知科学

●複雑系

●人間の遺伝学

●科学史、科学哲学

◎応募締め切り：1997年12月15日

◎応募要項は

インターネット <http://www.jsmf.org/centennial> に示されています。

もしくは、直接電子メールで centennial@jsmf.org へ問い合わせるか、郵便で **Centennial Fellowship Program, James S. McDonnell Foundation, 1034 South Brentwood Blvd, Suite 1850, Saint Louis, MO 63117 USA** へお問い合わせください。

研究会・集会案内

郵政省通信総合研究所

平磯宇宙環境センター一般公開のお知らせ

平磯宇宙環境センターでは、太陽や地球磁気圏等の宇宙環境の研究を行っています。また、独自の観測データ及び人工衛星や世界各地の観測データを基にした太陽フレア、地磁気嵐及び電離層の擾乱現象に関する予報を行っています。

一般公開ではセンター内の太陽光学／電波観測施設等の見学その他、私どもが運用している宇宙環境情報サービスの体験コーナーも予定しております。

日 時：7月20日(日)(海の日) 10時～16時

場 所：〒311-12 茨城県ひたちなか市磯崎3601

磯崎宇宙環境センター（駐車場有）

交 通：・常磐自動車道那珂ICより車で30分

・JR常磐線勝田駅よりタクシーで20分

・JR常磐線水戸駅北口より茨城交通阿字ヶ浦

行きバス、「無線下」バス停下車
問合先：TEL 029-265-7121 (代表)
FAX 029-265-9709
INTERNET <http://hirweb.crl.go.jp>

共同利用・共同研究

**東京大学理学部天文学教育研究センター木曾
観測所及び名古屋大学太陽地球環境研究所の
特別公開について**

時期：1997年8月9日(土)／10日(日)
時間：8月9日(土) 13時～17時
天体観望会 19時～22時
8月10日(日) 10時～16時
開催場所：〒397-01 長野県木曾郡三岳村 10762-30
電話：0264-52-3360 FAX：0264-52-3361

内容：東京大学木曾観測所及び名古屋大学太陽地球環境研究所を一般の皆様へ公開いたします。普段見ることのできない望遠鏡の動きや、測定装置を見学できるほか、観測所でとらえた最新の天体画像や写真等が見られます。本年は、「木曾シュミット望遠鏡がとらえた星の一生」をテーマとした特別展示を行います。また、9日の夜には、小望遠鏡を用いて惑星等を観望する観望会を開きます。

- 1) 木曾観測所及び太陽地球環境研究所施設の公開と説明
- 2) 望遠鏡のデモンストレーション
- 3) 特別展示「木曾シュミット望遠鏡がとらえた星の一生」
- 4) 研究活動の紹介
- 5) 天体観望会（9日のみ：雨天中止）
- 6) ビデオの上映
- 7) 天体写真の展示及び販売

備考：当施設への交通手段については、JR中央線木曾福島駅あるいは上松駅より車で約30分です。観測所から6kmのところまでバスの便があります（1日数本）。清涼飲料の販売はいたしますが、食堂はありませんのでご注意ください。

問い合わせ先：

木曾観測所 〒397-01 長野県木曾郡三岳村 10762-30
電話：0264-52-3360
FAX：0264-52-3361
名古屋大学 〒442 豊川市穂の原 3-13
電話：0533-89-5175
FAX：0533-85-3882 (STE研)

宇宙環境利用に関する地上研究公募のご案内

国際宇宙ステーションの軌道上における組立の開始が間近になるなど、宇宙環境利用の本格的時代を迎えようとしています。宇宙環境では、微小重力環境など地上では得がたい環境の下で、実験を実施することができます。

我が国は、独自の実験棟 (JEM)* をもって、国際宇宙ステーション計画に参加しており、今後、国際宇宙ステーションが完成すると、このような宇宙環境利用の機会が飛躍的に増大することになります。

一方、全国で展開されている広範な分野の研究活動と宇宙実験を効果的に結びつけていくためには、具体的な宇宙実験の提案・実施に至るまでに地上における関連研究の蓄積が必要です。

本制度は、このような認識の下に、実際にJEMを中心とした宇宙環境を利用する準備段階として、幅広い分野の研究者に研究機会を提供し、宇宙環境利用に関連する地上研究を推進することを目的としています。

* JEM：Japanese Experiment Module (宇宙ステーションの日本の実験棟)

公募制度の概要

- 大学、国立試験研究機関、民間企業などの研究者の方々を対象に幅広く研究テーマを募集します。
- 財団法人日本宇宙フォーラム内に、有識者によって構成される委員会を設置し、応募された研究テーマの選定等を行います。
- 研究形態：研究形態としては、委託研究、共同研究、招聘研究の3形態があります。
- 研究期間：1年～3年
- 実験施設、試験施設の提供

研究の必要に応じて調整の上、落下塔、航空機の微小重力模擬実験施設等の利用機会を提供いたします。

- スケジュール
 - ・ 募集期間：平成9年5月中旬～平成9年7月10日(木)
 - ・ 研究開始：平成9年10月初旬(予定)
- 問い合わせ先：
 - 財団法人日本宇宙フォーラム (JAPAN SPACE FORUM) 公募研究推進部
 - 担当：大西、北條
 - 電話：03-3459-1653
 - FAX：03-5470-8426
 - URL：<http://www.homepage.co.jp/jsforum>
 - E-mail：koubo@jsforum.or.jp

会務案内

内地留学奨学金の希望者を募集します。

応募される会員は、下記要項と定款（内地留学奨学金に関する内規）をご参照の上、事前に受け入れ予定機関及び教官に受け入れが可能であることを確認して、応募して下さい。

留学期間：1998年1月から約1年の希望期間

申し込み：所定用紙に必要事項を記入し、「〒181 三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 日本天文学会理事長」宛に申し込んで下さい。（用紙は日本天文学会事務室に用意してあります）

申し込み締切：1997年9月16日（火）必着

審査：当学会選考委員会（内規第5条）で審査の上決定し、10月下旬本人に通知します。

支給額：25万円以下で、支給予定は1998年1月とします。

人数：原則として1人、新人を歓迎します。

内地留学奨学金選考委員長 綾仁一哉

第17期日本学術会議天文学研究連絡委員会・委員候補者の選挙

上記選挙を以下の予定で実施いたします。

5月30日：有権者名簿締切

7月1日：正会員へ有権者名簿と投票用紙を郵送

7月2日～8月1日：投票期間

8月4日：開票

投票方法は従来通り、日本天文学会正会員（有権者）による20名以内無記名連記の郵送投票で行います。

庶務理事 柴田一成

天文研連委員改選の選挙に当たって

天文学研究連絡委員会委員長 尾崎洋二

本年7月22日から始まる第17期日本学術会議に対応して、9月に天文学研究連絡委員会（略して天文研連と呼んでいます）の委員も改選されます。この選挙に当たって、天文研連の活動について簡単に報告するとともに、天文学会会員の皆さんが研連委員候補者選挙に積極的に参加して下さいようお願いする次第です。

なお、日本学術会議および研究連絡委員会、専門委員会などについては、杉本前天文研連委員長による詳しい解説が、3年前の1994年8月号の天文月報に掲載されておりますので、そちらを参照して下さい。以下の記事

では上記解説と重複する部分もありますが、念のためもう一度記することにいたします。

1. 天文学研究連絡委員会について

日本学術会議は、1948年に定められた日本学術会議法に基づいて設立されました。学術会議は、科学の振興及び技術の発達に関する方策などについて、政府に勧告することが出来ることになっています。

学術会議のもとには、研究領域別、および課題別の研究連絡委員会と専門委員会があります。天文学プロパーのものとしては、天文研連とその中に設置されている天文学国際共同観測専門委員会（本年より日食専門委員会から改名）があります。

天文研連の役割は、日本の天文学の将来計画などについて検討し、必要があれば勧告、対外報告などを行うこと、また日本学術会議が加盟している国際学術団体の一つである国際天文学連合（IAU）の国内委員会（National Committee for Astronomy）を兼ねています。実際、第15期の天文研連では、「21世紀に向けた天文学長期計画について」という研連対外報告をまとめました。

天文研連の委員数は、第16期までは定員22名でしたが、本年2月28日に新たに設立された惑星科学専門委員会（親研連は地球物理学研連）に定員一名を供出した結果、第17期からは定員21名になります。

また、これまで天文研連の中に「日食専門委員会」（定員16名）が置かれてきました。日食観測は世界のさまざまな国で実施する必要があり、国際協力を必要とする分野でありましたが、近年、天文学の多くの分野で国際的な観測活動の必要性が急増してきました。このため、日食観測事業だけでなく天文学全分野での国際共同観測の諸問題を審議できるよう、専門委員会の名称を「天文学国際共同観測専門委員会」と改名することとし、これは本年2月28日開催の学術会議の運営審議会において認められました。

2. 天文研連委員候補者の選挙について

天文研連の委員候補者は天文学会から推薦していたが、分野や地域などに著しい偏りがある場合には、現在の天文研連で必要な調整を行った後に決めることになっております。これまで、天文学会からの推薦にあたっては、委員候補者を天文学会正会員による選挙で選んでいただいております。今回は日本天文学会にこの選挙をお願いすることになりました。

学術会議は、第13期（1982～1985）に組織改革を行ない、それ以後は通算3期（9年）を越えて研連委員として在任することはできない、という規則が決められました。

ただし、次の各号に該当する場合は、例外としてこの制限は外されることになっています。（1）研連委員であった後に学術会議会員となったものが、会長の指名を受けて再び研連委員となった（指名委員）場合、（2）学

術会議が参加している国際学術団体の役員である場合、(3)研連の設置または活動に重要な役割を果たした者等、その者を欠くと重大な支障が生じるおそれがある場合、その他特別な事由がある場合となっております。

天文研連の場合、(1)に該当するのは学術会議会員(天文学)1名、(2)に該当するのは、IAUのコミッション・プレジデント以上のIAU役員である場合で、その方々には自動的に研連委員になっていただくことになっております。

前回の第16期からこの規定が実行された結果、天文研連のメンバーが大幅に若返りました。今回の選挙に当たっても、天文研連を通じて天文学研究の一層の振興を期して一人でも多くの会員の皆様の投票参加をお願いいたします。

日本天文学会 1997 年春季年会報告

1997 年春季年会は3月20日(木)～22日(土)の3日間、東京大学教養学部の講義室の5会場を使って開催された。口頭(10分)、口頭(3分)+ポスター、による発表講演数はそれぞれ227、175であった。なお Post-deadline papers 講演は3件であった。今回の年会参加者は621名と盛況で、江里口氏を中心とする東大教養学部の方々の努力で順調に行われた。各会場の座長は次の方々にお願いした。

会場	A	B	C	D	E
1日目					
午前	谷川清隆	北本俊二	林 正彦	観山正見	坪井昌人
午後1	亘 慎一	定金見三	出口修至	濱部 勝	大橋正健
午後2	花岡庸一郎	田中靖夫	中野武宣	嶺重 慎	山本 智
2日目					
午前	末松芳法	尾中 敬	長谷川哲夫	田代 信	林田 清
午後1	坂尾太郎	竹内 峯	海部宣男	梅村雅之	田原 譲
3日目					
午前	吉村宏和	上野宗孝	長田哲也	岡崎敦男	杉山 直
午後1	野沢 恵	常田佐久	芝井 広	谷口義明	西 亮一

〈記者会見〉

春季年会の前日午後2時から、東京大学教養学部で記者会見を行い、次の点について解説した。

★トピックス

1) 南天の星形成領域を多数検出

一名古屋大電波望遠鏡なんてんの初観測成果の概要—
福井康雄 (名古屋大学理学部教授) 他

【関連講演：P31a, P32a, P33a, P34a, P35a, P36a】

2) 赤色巨星周辺の温かい分子雲

— ISO により見い出された新しい分子形成領域—

辻 隆 (東京大学理学部教授) 他

【関連講演：N52a, N49a, N50a】

〈通常総会〉

平成9年の通常総会は、2日目午後4時より開催された。天体発見賞の贈呈、日本天文学会林忠四郎賞・欧文報告論文賞の贈呈につづいて、平成8年度会務報告、会計報告が行われ承認された。さらに、日本天文学会定款、平成9年度事業計画、平成9年度予算案が承認された。続いて日本天文学会役員(1997-1998)が選任された。総会出席者は103名であった。

〈天文教育フォーラム〉

3日目午後3時から、天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラム「学校5日制、教科内容厳選で天文教育はどうなる？」が開催された。木村龍治氏、小杉健郎氏、水野孝雄氏らの報告のあと、多くの現状報告、意見交換が行われた。

〈懇親会〉

2日目午後6時から、東大生協ホールを利用して行われ、約180名の参加者があった。(株)五島プラネタリウム、(株)エイ・イー・エスからのご芳志もあり大変盛り上がった。

〈公開講演会〉

3月23日(日)午後2時より東京大学教養学部で行った。

講師および演題は

「宇宙の進化を遡る」

講演者：家 正則 (国立天文台教授)

「星団と銀河の進化」

講演者：杉本大一郎 (東京大学教授)

であった。家氏の講演では、現在最先端の観測と、近い将来完成予定のすばる望遠鏡による宇宙像の広がりについて、ビデオを交えてわかりやすく話された。杉本氏の講演では、星、星団、銀河の進化を、この分野の研究におけるユニークな計算機開発の成果をふまえて、自然科学の幅広い観点から解説された。

(年会実行委員長：田中培生)

〈保育室〉

天文学会として初めての試みである保育室は、講演会場に隣接した11号館に設置された。3日間でのべ6人の子供の利用があった。シッターさんの派遣は、ファミリーサポート(株)に依頼、部屋にはベビーベッド等の準備をした。利用者からは「保育室があるので、安心して学会出席ができた」などの感想が聞かれた。詳しい報告は学会のホームページにある。なお、天文学会と同様に保育室設置を考えている他学会員のために、設置についての情報をホームページで公開している。

(年会実行委員：加藤万里子)

平成 9 年通常総会報告

平成 9 年の通常総会は、3 月 21 日(金)16 時より開催された。会員 103 名が出席した。

議長：理事長 杉本大一郎

総会次第

1. 開会
2. 天体発見賞贈呈の件
3. 日本天文学会林 忠四郎賞・欧文報告論文賞の贈呈
4. 平成 8 年度会務報告 [資料 1]
5. 平成 8 年度会計報告 [資料 2]
6. 日本天文学会定款
7. 平成 9 年度事業計画書 [資料 3]
8. 平成 9 年度予算案 [資料 4]
9. 日本天文学会役員の選任 [資料 5]
10. その他

●天体発見賞贈呈

評議員会の議決に基づき定款第 6 条により、10 件 6 氏に天体発見賞・天体発見功労賞を贈呈する件を提案し、満場一致で可決された。

○天体発見賞 4 名

1) 青木昌勝氏：

- NGC 1084 に出現した超新星 1996 an の発見
- NGC 5584 に出現した超新星 1996 aq の発見
- NGC 7300 に出現した超新星 1996 の発見
- NGC 3510 に出現した超新星 1996 cb の発見

2) 佐々木俊司氏：

- NGC 5673 に出現した超新星 1996 cc の発見

3) 櫻井幸夫氏：

- いて座新星 1996 の発見
- いて座新星状天体「櫻井天体」を発見

4) 串田麗樹氏：

- NGC 3631 に出現した超新星 1996 bu の発見

○天体発見功労賞 2 名

1) 高見沢今朝雄氏：

- NGC 5061 に出現した超新星 1996 X の独立発見

2) 岡崎清美氏：

- NGC 673 に出現した超新星 1996 bo の独立発見

●日本天文学会林 忠四郎賞・欧文報告論文賞の贈呈

林忠四郎賞選考委員会の選考を経て、評議員会で、第 1 回林 忠四郎賞 1 件 2 名、欧文報告論文賞 1 件 2 名が決定された。

○林 忠四郎賞 2 名

- 1) 小玉英雄氏：宇宙背景放射ゆらぎの理論
- 2) 佐々木 節氏： 〃

○欧文報告論文賞 2 名

- 1) 加藤太一氏：Discovery of a Peculiar SU UMa-Type Dwarf Nova ER Ursae Majoris
- 2) カチーフ クンジャヤ： 〃

●平成 8 年度会務報告

定款第 36 条に基づき、理事長(庶務理事が代行)より平成 8 年度の会務報告があり、原案通り可決された。

●平成 8 年度会計報告

定款第 9 条に基づき、理事長(会計理事が代行)より平成 8 年度の会計仮決算報告があり、当年度終了後の評議員会にて承認を得た後、秋季総会に承認を得ることの了解を得た。

●日本天文学会定款

定款の細則・内規については、原案通り承認された。

●平成 9 年度事業計画書

定款第 41 条に基づき、評議員会の審議を経た平成 9 年度事業計画書案が理事長(庶務理事が代行)より提出され、原案通り議決された。

●平成 9 年度予算案

定款第 9 条に基づき、評議員会の議決を経た平成 9 年度予算案が理事長(会計理事が代行)より提出され、原案通り議決された。

●日本天文学会役員の選任

定款第 14 条に基づき、原案通り新役員が選任された。

(文責 庶務理事：田中培生)

[資料 1]

社団法人 日本天文学会

平成 8 年度会務報告

平成 8 年度は本会創立 89 年度、社団法人設立後 63 年にあたる。

ア) 出版物の刊行

- 1) 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan) 第 48 巻第 2 号～第 6 号、第 49 巻第 1 号 (1996 年 4 月から偶数月 25 日発行)
- 2) 天文月報 第 89 巻第 4 号～第 90 巻第 3 号まで (毎月発行)
- 3) 年会予稿集 1996 年秋季年会、1997 年春季年会

イ) 年会の開催

- 1) 1996 年秋季年会
 - 記者会見：10 月 2 日(水) 水沢文化会館
 - 年会：10 月 3 日(木)～5 日(土) 水沢文化会館 参加者 588 名、講演数 413 (口頭 210、口頭+ポスター 144、ポスター 59)
 - 懇親会：参加者約 200 名
 - 天文教育フォーラム：「大学入試における理科(地学)の位置付けと高校地学(天文)教育」
 - 公開講演会：10 月 6 日(日) 水沢文化会館 「天の川の地図作り」 笹尾哲夫(国立天文台教授)

「銀河とブラックホール」

中井直正 (国立天文台助教授)

2) 1997年春季年会

- 記者会見：3月19日(木) 東京大学 (駒場)
- 年会：3月20日(木)～22日(土) 東京大学 (駒場)
参加者 621名, 講演数 402 (口頭 227, 口頭+ポスター 175)
- 懇親会：参加者約 180名
- 天文教育フォーラム：「学校5日制, 教科内容厳選で天文教育はどうなる? —天文学は物理地学? 物理? 総合科目?」
- 公開講演会：3月23日(日) 東京大学 (駒場)
「宇宙の進化を遡る」
家 正則 (国立天文台教授)
「星団と銀河の進化」
杉本大一郎 (東京大学教授)

ウ) 総会, 評議員会, および理事会の開催

1) 総会

- 1996年10月4日 水沢文化会館
議題：平成7年度決算報告, 定款改訂, 他
- 1997年3月21日 東京大学 (駒場)
議題：林 忠四郎賞, 欧文報告論文賞, 天体発見賞, 今年度仮決算, 来年度予算案, 来期の理事, 定款改訂, 他

2) 評議員会

- 1996年6月1日 国立天文台三鷹
議長：尾崎洋二
議題：平成7年度決算報告, 他
- 1996年10月4日 水沢市文化会館
議長：笹尾哲夫
議題：平成7年度決算報告, 内地留学生選考, 他
- 1997年1月25日 国立天文台三鷹
議長：高原文郎
議題：定款細則, 学術会議会員選挙, 他
- 1997年2月22日 国立天文台三鷹
議長：松田卓也
議題：平成8年度会務報告・仮決算報告, 平成9年度事業計画・予算案, 定款細則, 林忠四郎賞・欧文報告論文賞, 天体発見賞, 研究奨励賞, 他
- 1997年3月21日 東京大学 (駒場)
議長：祖父江義明
議題：総会議題, 他

3) 理事会

- 1996年8月31日 国立天文台三鷹
議題：平成7年度決算報告, 定款改訂, 臨時総会開催, 他
- 1996年10月5日 水沢市文化会館

議題：定款改訂, 年会開催状況, 次期年会, 他
1997年2月15日 国立天文台三鷹

議題：定款細則改訂, 今年度仮決算, 来年度予算案, 来期役員, 他

1997年3月22日 東京大学 (駒場)

議題：年会開催状況, 役員引き継ぎ, 他

エ) 委員会, ワーキンググループ, その他

1) 委員会関係

- 林 忠四郎賞選考委員会：林 忠四郎賞に小玉英雄氏, 佐々木 節氏を, 欧文報告論文賞に加藤太一氏, カチフ・クンジャヤ氏を候補として推薦した。
- 天体発見賞選考委員会：天体発見賞に青木昌勝, 佐々木俊司, 櫻井幸夫, 申田麗樹氏を, 天体発見功労賞に高見沢今朝雄, 岡崎清美氏を候補として推薦した。
- 内地留学奨励金選考委員会：上田昌良氏に決定した。
- 研究奨励賞選考委員会：審議未了のため授賞を延期した。
- 早川幸男基金選考委員会：計10名を決定した。佐藤明達氏より400万円の寄付があった。

2) ワーキンググループ関係

- ビデオ教材WG：ビデオ教材を企画, 製作した。

3) 選挙

- 学術会議会員選挙：池内 了, 小平桂一氏を選出した (1月)

4) 研究助成金

- 本会の推薦により, 吉井 謙氏に第37回東レ科学技術研究助成金が贈られた。

5) 会員名簿

- 会員名簿にメールアドレスを記載し, 11月に発行, 配布した。

6) 会員数 (1997年4月1日現在)

	正会員(学生会員)	準会員	団体会員	賛助会員	合計
'96.3.31	1,223(329)	1,583	0	52	2,858
入会	92	52	0	2	146
退会	27	93	0	1	121
移籍(増)	7	24	45	0	76
移籍(減)	27	49	0	0	76
'97.4.1	1,268(328)	1,517	45	53	2,883

(文責：庶務理事 田中培生)

[資料 2]

社団法人 日本天文学会
平成 8 年度 収支計算書

(平成 8 年 4 月 1 日～平成 9 年 3 月 31 日)

【一般会計】

収入の部

(単位：円)

勘定科目 大・中・小科目	予 算 額	決 算 額
基本財産運用収入	115,000	60,000
基本財産利息収入	115,000	60,000
会 費 収 入	33,350,000	33,408,000
特別会員会費収入	20,470,000	20,796,000
一般会費収入	15,660,000	15,957,000
学生会費収入	4,810,000	4,839,000
通常会員会費収入	12,880,000	12,612,000
事業費収入	26,620,000	27,414,680
欧文研究報告発行事業収入	15,320,000	16,416,679
購 読 料	5,000,000	4,919,582
掲 載 料	6,400,000	6,605,797
別 刷 料	3,920,000	4,891,300
天文月報発行事業収入	6,150,000	5,426,415
購 読 料	950,000	1,176,445
別 刷 代	500,000	439,450
広 告 料	4,700,000	3,810,520
年会事業収入	5,150,000	5,571,586
予稿集頒布収入	1,800,000	2,158,250
参加費	3,000,000	2,945,405
雑 収 入	350,000	467,931
印 税 収 入	2,900,000	2,595,770
星座早見印税収入	1,900,000	1,986,560
その他の印税収入	1,000,000	609,210
補助金収入	6,700,000	5,480,000
文部省刊行補助金収入	4,300,000	4,280,000
公開講演会補助金収入	2,400,000	1,200,000
寄付金収入	300,000	30,000
寄 付 金 収 入	300,000	30,000
雑 収 入	1,625,000	1,714,251
受 取 利 息	125,000	75,400
特別企画収入	500,000	286,294
その他の収入	1,000,000	1,352,557
繰 入 金 収 入	444,247	444,247
平成 5 年度分消費税繰入	444,247	444,247
当期収入合計 (A)	72,054,247	71,146,948
前期繰越収支差額	22,753,744	22,753,744
収入合計 (B)	94,807,991	93,900,692

支出の部

勘定科目 大・中・小科目	予 算 額	決 算 額
事 業 費	50,370,000	45,739,674
欧文研究報告発行事業費	24,350,000	23,926,902
直接出版費	15,700,000	15,498,721
別刷印刷費	1,500,000	2,843,465
人謝件費	4,500,000	3,524,878
送料運搬費	840,000	590,200
消耗品費	1,600,000	1,393,149
雑費	200,000	76,489
天文月報発行事業費	17,620,000	15,650,876
直接出版費	11,000,000	9,380,494
別刷印刷費	420,000	319,800
人謝件費	800,000	531,164
送料運搬費	1,800,000	2,055,099
消耗品費	3,000,000	2,610,597
雑費	500,000	526,722
年会事業費	100,000	227,000
予稿集印刷費	8,100,000	5,861,896
送料運搬費	3,400,000	2,488,340
会場費	1,200,000	1,109,780
消耗品費	900,000	343,874
雑費	500,000	1,170,290
IAU 総会開催事業費	1,000,000	489,470
準備費	1,100,000	260,142
管 理 費	300,000	300,000
人 件 費	22,090,000	21,689,331
謝会費	7,600,000	7,772,049
負担金	600,000	288,290
租 税 公 課	400,000	256,761
旅 費 交 通 費	120,000	162,000
送 料 通 信 費	1,200,000	1,508,778
什 器 備 品 費	1,500,000	1,249,584
消 耗 品 費	2,400,000	1,528,725
印 刷 製 本 費	2,000,000	2,706,528
光 熱 水 料 費	600,000	1,224,005
賃 借 料 費	1,600,000	1,701,250
保 険 料 費	120,000	221,511
諸 手 数 料 費	1,700,000	1,441,379
書 籍 購 入 費	100,000	84,474
特 別 企 画 費	200,000	185,591
内 地 留 学 奨 学 金 繰 入	500,000	752,165
雑 費	500,000	108,034
特定預金支出	200,000	200,000
退職給与引当預金支出	750,000	298,207
退職給与引当預金支出	150,000	1,171,000
減価償却引当預金支出	150,000	171,000
予 備 費	0	1,000,000
予 備 費	22,197,991	0
当期支出合計 (C)	22,197,991	0
当期収支差額 (D=A-C)	94,807,991	68,600,005
当期繰越収支差額 (E=B-C)	△ 22,753,744	2,546,943
次期繰越収支差額	0	25,300,687

【特別会計】 収支計算の部 (単位：円)

会計種目	科目	予算額	決算額	
収入の部				
学術交流費	賛助会員会費収入	2,000,000	2,070,000	
	受取利息	2,500	1,000	
	前期繰越収支差額	330,017	330,017	
	収入合計	2,332,517	2,401,017	
	支出の部			
	学術交流費	2,000,000	1,916,600	
予備費	3,000	0		
支出合計	2,003,000	1,916,600		
次期繰越収支差額	329,517	484,417		
収入の部				
内地留学奨学金	基本財産利息収入	80,000	47,976	
	一般会計より繰入	200,000	200,000	
	前期繰越収支差額	11,278	11,278	
	収入合計	291,278	259,254	
	支出の部			
	奨学金支出	250,000	250,000	
雑費	1,600	618		
支出合計	251,600	250,618		
次期繰越収支差額	39,678	8,636		
収入の部				
研究奨励賞	奨励賞資金収入	200,000	226,000	
	受取利息	2,500	1,178	
	前期繰越収支差額	5,173,246	5,173,246	
	収入合計	5,375,746	5,400,424	
	支出の部			
	奨励賞支出	100,000	0	
雑費	2,000	17,010		
支出合計	102,000	17,010		
次期繰越収支差額	5,273,746	5,383,414		
収入の部				
早川幸男基金	寄付金収入	100,000	4,000,000	
	受取収入	10,000	125,658	
	前期繰越収支差額	14,798,889	14,798,889	
	収入合計	14,908,889	18,924,547	
	支出の部			
	研究補助支出	1,500,000	1,490,000	
雑費	10,000	4,892		
支出合計	1,510,000	1,494,892		
次期繰越収支差額	13,398,889	17,429,655		
収入の部				
林 忠四郎賞	寄付金収入	20,000,000	20,000,000	
	受取収入	300,000	118,107	
	収入合計	20,300,000	20,118,107	
	支出の部			
	林賞支出	500,000	200,000	
	メダル制作費	0	3,249,111	
雑費	200,000	37,914		
支出合計	700,000	3,487,025		
次期繰越収支差額	19,600,000	16,631,082		

社団法人 日本天文学会

平成8年度 一般会計正味財産増減計算書

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

増加の部 (単位：円)

勘定科目 大科目・中科目	決算額
増加の部	
資産増加額	
退職引当預金増加額	171,000
減価償却引当預金増加額	1,000,000
貯蔵品増加額	44,685
什器備品増加額	2,440,328
当期収支差額	2,546,943
増加額合計 (F)	6,202,956
減少の部	
資産減少額	
什器備品償却額	252,990
備品廃棄額	384,715
負債増加額	
退職給与引当金繰入額	171,000
減少額合計 (G)	808,705
当期正味財産増減額 (H=F-G)	5,394,251
前期正味財産 (I)	31,602,693
期末正味財産 合計 (J=I+H)	36,996,944

平成8年度事業報告書、収支計算書及び財産目録について、関係書類とともにその内容を監査した結果、法令および定款に照らして正当であることを認めます。

平成9年4月24日 社団法人日本天文学会

監事 前原英夫 (印)

監事 野本憲一 (印)

社団法人 日本天文学会
貸借対照表
平成8年度(平成9年3月31日)

【一般会計】

(単位：円)

資産の部			負債及び正味財産の部		
勘定科目	金額		勘定科目	金額	
大科目・中科目			大科目・中科目		
流動資産			流動負債		
現金預金	24,685,647		未収金	125,154	
未収会費	2,993,205		預り金	2,162,954	
貯蔵品	1,823,001		前受金	990,859	
有価証券	5,500,000		前受会費	5,738,350	
未収金	1,039,152		流動負債合計		9,017,317
仮払金	100,000		固定負債		
流動資産合計		36,141,005	退職給与引当金	171,000	171,000
固定資産			負債合計		9,188,317
投資有価証券	5,000,000		正味財産	36,996,944	
その他の固定資産			(うち、基本金)	(5,000,000)	
什器備品	3,873,256		(うち、当期増加額)	(5,394,251)	
退職給与引当預金	171,000		正味財産合計		36,996,944
減価償却引当預金	1,000,000		負債及び正味財産合計		46,185,261
固定資産合計		10,044,256			
資産合計		46,185,261			

【特別会計】

(単位：円)

学 術 交 流 費					
流動資産			正味財産		
現金預金	484,417		次期繰越収支差額	484,417	
			(うち当期増加額)	(154,400)	
資産合計		484,417	正味財産合計	484,417	
			負債及び正味財産合計		484,417
内 地 留 学 奨 学 金					
流動資産			正味財産		
現金預金	8,636		基本金	4,310,000	
その他の固定資産			次期繰越収支差額	8,636	
投資有価証券	4,310,000		(うち当期減少額)	(2,642)	
資産合計		4,318,636	正味財産合計	4,318,636	
			負債及び正味財産合計		4,318,636
研 究 奨 励 賞					
流動資産			正味財産		
現金預金	5,383,414		次期繰越収支差額	5,383,414	
			(うち当期増加額)	(210,168)	
資産合計		5,383,414	正味財産合計	5,383,414	
			負債及び正味財産合計		5,383,414
早 川 幸 男 基 金					
流動資産			正味財産		
現金預金	5,429,655		次期繰越収支差額	17,429,655	
有価証券	12,000,000		(うち当期増加額)	(2,630,766)	
資産合計		17,429,655	正味財産合計	17,429,655	
			負債及び正味財産合計		17,429,655
林 忠 四 郎 賞					
流動資産			正味財産		
現金預金	131,082		次期繰越収支差額	16,631,082	
有価証券	16,500,000		正味財産合計	16,631,082	
資産合計		16,631,082	負債及び正味財産合計		16,631,082

(注) 基本財産(基本金)たる資産：投資有価証券 9,310,000円
預り金の内消費税 2,130,454円(うち当期消費税 949,516円)

[資料5]

日本天文学会役員 (1997-1998)

理事 (15名)

理事長：奥田治之

副理事長：岡村定矩， 定金晃三

庶務理事：柴田一成， 田中培生

会計理事：紀伊恒男， 尾中 敬

PASJ 理事：有本信雄

月報理事：末松芳法

年会理事：加藤万里子

教育理事：沢 武文

年会開催地担当理事：田原博人， 大橋隆哉， 柴田晋平

IAU 理事：福島登志夫

監事 (2名)

内田 豊， 佐藤修二

日本天文学会委員 (1997-1998)

PASJ 編集顧問：池内 了， 稲垣省五， 尾崎洋二， 木下 宙， 桜井 隆， 佐藤勝彦， 佐藤文隆， 祖父江義明， 田原博人， 長瀬文昭

PASJ 編集委員会：有本信雄 (委員長)， 江里口良治， 大橋隆哉， 柴橋博資， 中井直正， 中村士， 花岡庸一郎

天文月報編集委員会：末松芳法 (委員長)， 上野宗孝， 大橋正健， 小谷太郎， 辻本拓司， 野口邦男， 平野尚美， 宮坂正大

年会実行委員会：加藤万里子 (委員長)， 坂尾太郎， 茂山俊和， 花見仁史， 浜部 勝

教育委員会：沢 武文 (委員長)， 縣 秀彦， 磯部瑠三， 小杉健郎， 毛利勝廣， 山縣明彦

評議員選挙管理委員会：野口邦男 (委員長)， 梅本智文， 大橋正健， 高橋竜太郎， 西川 淳

林忠四郎賞選考委員会：杉本大一郎 (委員長)， 井上允， 尾崎洋二， 小平桂一， 佐藤文隆， 奥田治之 (理事長)

研究奨励賞選考委員会：江里口良治 (委員長)， 大橋隆哉， 中井直正， 林 正彦， 福島登志夫

天体発見賞選考委員会：渡部潤一 (委員長)， 西城恵一， 中野圭一， 中村 士， 山岡 均

内地留学奨学金選考委員会：綾仁一哉 (委員長)， 黒田武彦， 西城恵一， 鈴木文二， 田中 済

早川基金選考委員会：福島登志夫 (委員長)， 戎崎俊一， 大橋隆哉， 谷口義明， 長谷川哲夫

ネットワーク委員会：田中培生 (委員長)， 鈴木知治

[資料3]

社団法人 日本天文学会事業計画書

1997年度 (1997年4月1日から1997年12月31日まで)

ア) 出版物の刊行

1) 欧文研究報告 (Publications of the Astronomical Society of Japan)
第49巻2号～第49巻6号， 隔月刊， A4版， 発行部数1650， 年間総ページ800を予定。

2) 天文月報
第90巻4号～第90巻12号， 月刊B5版， 発行部数3200， 毎号52ページを予定。DTP採用。

3) 講演予稿集
秋季年会の講演予稿集1巻， 発行部数700を予定。

イ) 年会の開催

秋季年会

会期：1997年9月29日～10月1日

会場：宇都宮大学

公開講演会：2題を予定

ウ) IAU総会 (8月17日～30日) 日本学術会議と共同主催

エ) 総会， 評議員会， 理事会

1) 総会 秋季年会会場で開催。

2) 評議員会

5月， 7月， 12月及び秋季年会会場にて開催予定。

3) 理事会

5月， 9月， 12月及び秋季年会会場にて開催予定。

オ) 委員会， ワーキンググループの開催

1) 欧文研究報告編集委員会

編集長：有本信雄

2) 天文月報編集委員会

編集長：末松芳法

3) 年会実行委員会

委員長：加藤万里子

4) 林 忠四郎賞選考委員会 (欧文報告論文賞を含む)

委員長：杉本大一郎

5) 天体発見賞選考委員会

委員長：渡部潤一

6) 研究奨励賞選考委員会

委員長：江里口良治

7) 早川幸男基金 (若手海外学術研究援助金) 選考委員会

委員長：福島登志夫

8) 内地留学奨学生選考委員会

委員長：綾仁一哉

9) 教育委員会

幹事：沢 武文

10) ビデオ教材ワーキンググループ

幹事：戎崎俊一

カ) 事務・管理費

1) ネットワーク整備および事務処理合理化のためのOA化に150万円を支出する予定。

キ) 特別会計

1) 早川幸男基金 (若手海外学術研究援助金) に120万円を予定。

[資料4]

平成9年度 収支予算書
(平成9年4月1日～平成9年12月31日)

【一般会計】

I] 収入の部

(単位：円)

勘定科目 大・中・小科目	予算額	前年度 予算額
基本財産運用収入	60,000	115,000
基本財産利息収入	60,000	115,000
会費収入	25,088,000	33,350,000
正会員会費収入	15,300,000	20,470,000
正会員会費収入	11,800,000	15,660,000
正会員会費収入(学生)	3,500,000	4,810,000
準会員会費収入	9,450,000	12,880,000
団体会員会費収入	338,000	0
事業収入	17,735,000	26,620,000
欧文研究報告発行事業収入	11,340,000	15,320,000
購読料	4,170,000	5,000,000
掲載料	5,250,000	6,400,000
別刷代	1,920,000	3,920,000
天文月報発行事業収入	3,620,000	6,150,000
購読料	760,000	950,000
別刷代	260,000	500,000
広告料	2,600,000	4,700,000
年会事業収入	2,775,000	5,150,000
予稿集頒布収入	1,100,000	1,800,000
参加費	1,500,000	3,000,000
雑収入	175,000	350,000
印税収入	1,800,000	2,900,000
星座早見印税収入	1,500,000	1,900,000
その他の印税収入	300,000	1,000,000
補助金収入	5,200,000	6,700,000
文部省刊行補助金収入	4,000,000	4,300,000
公開講演会補助金収入	1,200,000	2,400,000
寄付金収入	50,000	300,000
寄付金収入	50,000	300,000
雑収入	1,135,000	1,625,000
受取利息	35,000	125,000
特別企画収入	200,000	500,000
その他の収入	900,000	1,000,000
繰入金収入	607,326	444,247
繰入金収入	607,326	444,247
当期収入合計(A)	51,675,326	72,054,247
前期繰越収支差額	25,300,687	22,753,744
収入合計(B)	76,976,013	94,807,991

II] 支出の部

(単位：円)

勘定科目 大・中・小科目	予算額	前年度 予算額
事業費	36,230,000	50,370,000
欧文研究報告発行事業費	19,160,000	24,350,000
直接出版費	12,850,000	15,700,000

別人謝送消雑	770,000	1,500,000
印刷件	3,400,000	4,500,000
送料運搬	790,000	840,000
消耗品	1,100,000	1,600,000
雑費	200,000	200,000
天文月報発行事業費	50,000	10,000
天文月報発行事業費	13,270,000	17,620,000
直接出版費	7,700,000	11,000,000
別人印刷件	320,000	420,000
謝送消雑	900,000	800,000
送料運搬	1,800,000	1,800,000
消耗品	2,000,000	3,000,000
雑費	400,000	500,000
年会事業費	150,000	100,000
年会事業費	3,500,000	8,100,000
予稿集印刷費	1,300,000	3,400,000
謝送消雑	600,000	1,200,000
送料運搬	300,000	900,000
会場	700,000	500,000
消耗品	300,000	1,000,000
雑費	300,000	1,100,000
IAU総会開催事業費	300,000	300,000
準備	300,000	300,000
管理費	14,940,000	22,090,000
人件費	6,300,000	7,600,000
謝会費	260,000	600,000
負担	200,000	400,000
税金	150,000	120,000
公共交通課	1,500,000	1,200,000
送付	800,000	1,500,000
通信	900,000	2,400,000
什器備品	1,500,000	2,000,000
消耗品	600,000	600,000
印刷製本	400,000	1,600,000
光熱水	180,000	120,000
借料	1,150,000	1,700,000
保険	100,000	100,000
諸手数	150,000	200,000
書籍購入	400,000	500,000
特別企画	100,000	500,000
内地留学奨学金へ繰	0	200,000
雑費	250,000	750,000
基本金支出	3,000,000	0
基本金支出	3,000,000	0
特定預金支出	671,000	150,000
減価償却引当預金支出	500,000	0
退職給与引当預金支出	171,000	150,000
予備費	22,135,013	22,197,991
予備費	22,135,013	22,197,991
当期支出合計(C)	76,976,013	94,807,991
当期収支差額(A-C)	△25,300,687	△22,753,744
次期繰越収支差額(B-C)	0	0

【特別会計】

(単位：円)

会計種目	科目	予算額	前年度 予算額
収入の部			
学術交流費	賛助会員会費収入	1,500,000	2,000,000
	受取利息	1,500	2,500
	前期繰越収支差額	484,417	330,017
	収入合計	1,985,917	2,332,517
支出の部			
学術交流費	学術交流費	1,000,000	2,000,000
	雑費	3,000	3,000
	支出合計	1,003,000	2,003,000
	次期繰越収支差額	982,917	329,517
収入の部			
内地留学 奨学金	基本財産利息収入	25,000	80,000
	一般会計より繰入	0	200,000
	前期繰越収支差額	8,636	11,278
	収入合計	33,636	291,278
支出の部			
内地留学 奨学金	奨学金支出	0	250,000
	雑費	3,000	1,600
	支出合計	3,000	251,600
	次期繰越収支差額	30,636	39,678
収入の部			
研究奨励賞	資金収入	50,000	200,000
	受取利息	2,000	2,500
	前期繰越収支差額	5,383,414	5,173,246
	収入合計	5,435,414	5,375,746
支出の部			
研究奨励賞	研究奨励費	0	0
	雑費	2,000	2,000
	支出合計	2,000	2,000
	次期繰越収支差額	5,433,414	5,373,746
収入の部			
早川幸男基金	寄付収入	100,000	100,000
	受取利息	50,000	10,000
	前期繰越収支差額	17,429,655	14,798,889
	収入合計	17,579,655	14,908,889
支出の部			
早川幸男基金	研究補助費	1,200,000	1,500,000
	雑費	10,000	10,000
	支出合計	1,210,000	1,510,000
	次期繰越収支差額	16,369,655	13,398,889
収入の部			
林 忠四郎賞	寄付収入	0	20,000,000
	受取利息	100,000	300,000
	前期繰越収支差額	16,631,082	0
	収入合計	16,731,082	20,300,000
支出の部			
林 忠四郎賞	研究補助費	0	500,000
	雑費	50,000	200,000
	支出合計	50,000	700,000
	次期繰越収支差額	16,681,082	19,600,000

日本天文学会 1997 年秋季年会の開催と
講演の申し込みについて

秋季年会は 1997 年 9 月 29 日(月)から 10 月 1 日(水)までの 3 日間、宇都宮大学にて開催します。前回と比べて講演申し込み期間が早くなっていますのでご注意ください。
【講演の申し込み】

講演の申し込みは「〒 181 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 日本天文学会年会係」あてに封筒の表に「講演申込書在中」と朱書の上、7 月 9 日(水)までに必着するよう規定の年会予稿原稿用紙(本号にはさみ込み)を用いてお送りください。

e-mail での投稿受付は、7 月 4 日朝 9 時～7 月 10 日朝 9 時とします。非会員からの e-mail での予稿も受け付けます。e-mail での予稿の書き方、送り方およびフォーマットは tennet を通して連絡します。tennet から直接情報を入手できない方は tennet 加入者にお聞きください。さらに、WWW にも掲載します。直接学会事務局へのお問い合わせにはお答えできません。郵送と e-mail との二重の申し込みは固くお断りします。

さらにプログラムを WWW 上に掲載します。e-mail 投稿による予稿本体も、プログラムと同様に WWW 上に掲載しますので、支障のある方は前もってお申し出下さい。

講演は「口頭発表(講演 10 分)」,及び「口頭発表(3 分)+ポスター発表」にて行いますので、希望の発表形態を選択して下さい。口頭発表(3 分)の質疑応答は数講演を一括して時間を設けて行います。また、筆頭講演者の複数講演が可能です。ただし、2 つ目以降の講演は「口頭発表(3 分)+ポスター発表」とします。

Post-deadline papers も受け付けます。これは、単に講演の締切日に間に合わなかったものではなく、IAU Circular に掲載されるような緊急性・トピックス性に富んだものに限定し、9 月 24 日(水)まで受け付けます。講演方法はポスター発表となります。

講演分野の分類は以下の 15 通りです。

- J. 位置天文学, K. 天体力学, L. 太陽系, M. 太陽, N. 恒星, P. 星形成, Q. 星間現象, R. 銀河, S. 活動銀河核, T. 銀河団, U. 宇宙論, V. 地上観測機器, W. 飛翔体観測機器, X. 情報処理, Y. 天文教育・その他

なお申し込みの分野の分類に続けて、プログラム編成のため、内容を最もよく表すキーワードをご記入下さい(例:恒星(内部振動))。

講演申込み・発表に際しては特に次の事項を厳守して下さい。

1. 講演内容は完成度の高い研究とする。
2. 連名の場合、発表者を講演著者の筆頭におく。

3. 口頭発表においては、オーバーヘッドプロジェクターを使用すること。
 4. ビデオプロジェクターの使用（10分講演のみ可能）を希望される方は年会申し込み用紙に○印をつけて下さい。
 5. スライドの使用は原則として考えていませんが、どうしてもという方は、年会実行委員長（加藤万里子）まで前もって連絡してください。
 6. 郵送による申し込みの際、原稿をセロテープ、メンディングテープなどで張りつけることはせずに、必ず糊をお使いください。
- なお、近年、講演のキャンセルが増えています。理由のいかんにかかわらず、これ以上キャンセルが増えると、年会の運営に支障をきたしますので、慎重にお申し込み下さい。

年会は、主として会員の研究発表や情報交換等を通じて天文学の発展に寄与するものです。非会員の方で講演を希望される方には、申し込みの際に入会をお薦めしております。

【年会出席旅費補助】

講演申し込み者で年会出席旅費の補助を希望される会員は、7月9日(水)までに必着するよう日本天文学会に申し込んで下さい。ただし申し込みのできる人は、1997年度会費納入済みの方で、連名の場合でも筆頭講演者であり、正式の給与を受けていない正会員学生会費納入者に限ります。尚、旅費は年会会場にてお渡し致しますので印鑑をご持参下さい。年会終了後にはお渡しできません。

【参加費等の支払い方法】

講演の申し込みには講演登録料が必要です。ただし、会員の種別によらず、1講演につき講演登録料が免除となります。

年会参加費	3,000円（正会員（学生）は2,000円）
年会講演登録料	3,000円
年会予稿集	2,000円

- 1) 年会参加費及び年会講演登録料は年会会場でお支払いください。
- 2) 年会講演登録料は、講演を複数回申し込まれた方の、2講演目からの1講演あたりの金額です。
- 3) 予稿集（2,000円/冊（含消費税））送料は会員は不要。非会員は実費を購入希望の方は、1997年秋季年会予稿集希望と明記の上

郵便振替は 00160-1-13595

社団法人 日本天文学会

現金書留は 〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台内
社団法人 日本天文学会

宛ご送金下さい。

発行次第お送りいたします。

尚、会費の自動引き落としの手続きをしてある方は、9月15日までにお申し込み頂ければ11月10日に代金をご指定口座より引き落とし致します。

【お問い合わせ】

年会中に、集会のため会議室の利用を希望される方は、前もって 宇都宮大学 田原博人までご連絡下さい。

電話番号：028-649-5307（ダイヤルイン）

ファックス：028-633-4913

（年会実行委員長 加藤万里子）

講演申し込み期間の変更について

今回から、講演の申し込みの締め切りが早くなります。従来、年会実行委員会では、電子メール投稿の導入などの合理化により、申し込み締め切りから年会までの期間をなるべく短くするように努力してきました。これはなるべく完成された内容の講演をしていただくためです。そのためもあり、昨年度は年会の予稿プログラムを天文月報に掲載することはしませんでした。今回からは、評議員会からの強い要望により、年会のプログラムを天文月報に掲載することにいたします。

そのため、天文月報の印刷時期にあわせ、講演申し込みが年会期日から約3カ月前に遡ることになります。

学会における講演の内容の質がこれにより低下することのないよう、投稿する際には、従来通り完成された内容の講演を申し込まれるようお願いいたします。

（理事長 奥田治之）

天文学会会期中の保育室設置のお知らせ

春季年会に引き続き、秋季年会でも、会場内に保育室を設置する予定です。詳しい内容と申し込み手続きは、天文学会のWWWホームページ

（<http://www.tenmon.or.jp/meeting/>）に掲示します。WWWがアクセスできない方は、実行委員長の加藤万里子まで、電子メール（mariko@educ.cc.keio.ac.jp）かFAX（045-563-1650 加藤万里子あてと明記のこと）で、ご連絡ください。

（年会実行委員長 加藤万里子）